

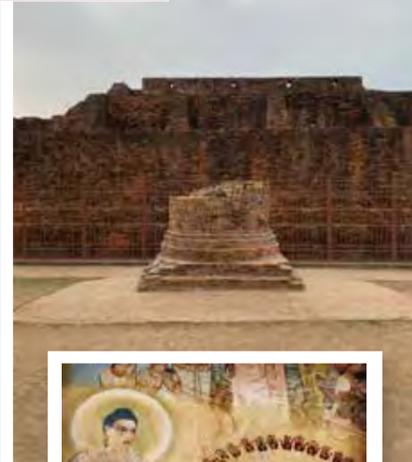
ヤドリギの実、なんてかわいらしいでしょう。



インド仏跡巡礼記 3 「アングリマーラの塚」

祇園精舎の近くにあった舎衛城(しゃえいじょう)。当時栄えていた強国コーサラ国の首都の中に、アングリマーラの塚と呼ばれるものがあります。城内は今ではもう遺跡群を残すのみとなっておりますが、このストゥーパ(塔)はひと際目立ちます。アングリマーラとは、お釈迦様のお弟子です。アングリマーラというのは通称で、意味は「切った指でつくった輪をかけている者」となるとも恐ろしい名前です。本当の名前をアヒンサといい、非常にまじめで従順な青年であったといえます。あるバラモンの弟子となりましたが、だまされて師匠から「千人の人を殺害しなければ、本当のバラモンにはなれない」と言い渡され、それを実行していきます。殺した人の指を切り落とし、それをつないで首飾りとしていきました。首飾りの完成まであと1人というところで、そこにお釈迦様が現れました。お釈迦様の尊いお姿と慈悲心に接して、アングリマーラは、祇園精舎までついて行き、お釈迦様の弟子になりました。この塚はアングリマーラが帰依した場所とされています。しかし出家した後も、過去に殺人鬼であるため、周りから石を投げられたり、棒で殴られたりもしましたそうです。極悪人でもおさとりをひらくことができるが、過去の悪業からは逃れることはできない。しかし、それでも仏弟子となって以降は一人も殺していないという清らかな思いと行いから、アングリマーラは苦しみから救われたということです。

アングリマーラの塚



ブラジルの法要に参加してきました

ピッチ大樹老師というブラジル人が日本で修行の後に、故郷ブラジルに建てたお寺、禅光寺。今年で50周年を迎え、9月初旬に住職は大本山永平寺の公務として行ってまいりました。



欧米初の35Mの大仏。年間40万人が訪れます。



日本から現地まで35時間の移動。遠いカトリックの国ですが、禅の生き方が広く受け入れられていることに感動する一週間となりました。

新規納骨壇増設

広徳寺はインスタグラムとフェイスブックで行事のご案内やご報告、お寺の今をお届けしています。ご利用の方は是非フォローしていただけると、とっても嬉しいですよ！



@koutokuji_temple

広徳寺の最新情報

納骨壇利用者が増え、三段型の納骨壇が新規に増設されました。お位牌を安置する場所として、お骨を納める場所として幅広くご利用いただけます。広徳寺檀家の他、菩提寺を持たない方であればご納骨でもご利用いただけます。ご希望の方は寺務所までお尋ね下さい。



花の色ろ美なりと云へども

独り開くるにあらず、

春風を得て開るなり。

道元禅師 (正法眼蔵随聞記)

変化していく、ということが非常に面白く思う一年でした。

昨年春先にキブシの枝をいただき、鈴なりに垂れ下がる黄色い花を楽しむためにとお寺の玄関に生けていました。しばらくすると、花は枯れ落ちてしまいましたが、その傍で葉が開きはじめます。ちよん、ちよん、とした葉っぱの様子はいかにもかわいらしい。

花というと、花が咲き、散っていく、二段構えのように思ってしまう。そして、花が咲くと美しく感じ、花が散ると要らぬものと思う心があります。しかし、じっさいには花が咲くにも冬芽があり、葉が開くにも順番や気温、条件がある。花が咲き散っていくまでの過程そのものが美しく、その変化を受けとめ楽しんでいく心は、とても豊かで嬉しいものであると感じます。このような喜びは、なぜか、独り占めするより、誰かと共有したい気持ちにもなります。

今、お寺の玄関にはヤドリギの枝が生けられました。ふだん、間近に眺めるものでないから本当に面白い。淡い黄色の実もまたみずみずしく、そしてこれがどのように変化していくのか。我が身の変化とともに楽しんでいきたい。そう考えると、無常というのも、はかなく寂しいものばかりでないのだなとも思うのです。合掌。



婦人会活動



上磯中学校合唱部が地域食堂でコンサート



高校生がデザートを作ってくれました



お寺参りでお供物をおそなえます



フードパントリーではトリオKさんの演奏も！



子ども食堂応援する手ぬぐい



シンガポールからの学生に坐禅指導



カンタ！ティモール上映会



1枚1,500円で販売中！

上磯中学校合唱部の生徒たちと



地元のバスケの小学生チームが坐禅にきました！



北斗高等支援学校の生徒がお寺をキレイに



今回は最終回2月13日木

お袈裟を縫う会の様子



じょじょに完成してまいりました

住職就任の晋山式にて初お披露目となります



今回は4月を予定！

落語会

三遊亭わん丈さんと記念の一枚！

イギリス人の
お坊さん

5月の大法要ではイギリスからお坊さんがやってきます。コーワン・慈龍さん。ご縁あって広徳寺で“首座（しゅそ）”という大事なお役目をいたします。プロフィールをいただきましたのでご紹介します！



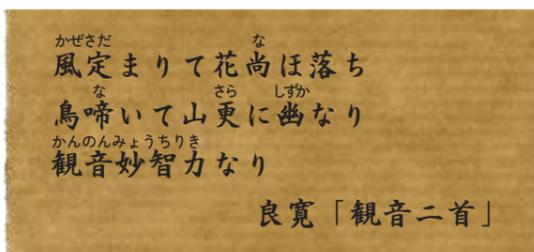
ダニエル・ジェイソン・コーワン / Daniel Jason Cowan

お坊さんの名前



慈龍さん 1969年9月23日生 55歳

私はイングランド北西部の美しい湖水地方で生まれ、バースとソールズベリーという歴史ある街の間にあるウェストカントリーで育ちました。私は好奇心旺盛な子どもで、身の回りのあらゆるものの本質について多くの難解な疑問をもつ、小さな自然哲学者でした。仏道と日本文化への関心は、10代の頃に良寛の詩に初めて出会ったときに生まれました。



良寛「観音二首」

若さのロマンと道を求める心に突き動かされて私は旅をし、20代半ばになってようやく落ち着き、息子のオリを育て、大学に戻って仕事に就きました。サセックス大学で哲学の学士号と人工知能の修士号を取得しました。その後、ブライトンで2つのテクノロジー企業を設立し、経営しました。20年間、私はソフトウェアを書き、ビジネスを営み、家族の世話をしてきました。私はイーストサセックス州の海辺に近いサウスダウズにあるルイスという小さな町を拠点としています。



オリが大学に進学するために家を出たとき、私はブライトンの地元の曹洞宗グループで修行を始めました。5年間の熱心な修行とヨーロッパ中の修道院や禅センターへの旅の後、私は現在フランスの禅道尼苑（ぜんどうにえん）の住職であるメルシエ・黙峰（もくほう）老師から得度を受けました。黙峰老師は、沢木興道老師の系譜に属する弟子丸泰仙老師の弟子です。僧侶になったとき、私は家族の生活を捨て本格的に修行し、仏法の学びと継承、そして坐禅の修行に完全に専念しました。



2023年には岡山県の洞松寺（とうしょうじ）で6か月間修行し、良寛の精神とともに倉敷の円通寺でも修行することができました。2025年は長崎の皓台寺（こうたいじ）でさらに3か月安居修行し、その後北斗市に向かい広徳寺で皆さんのところに参ります。広徳寺で修行し、5月の晋山式や慶讃法要に参加できることを嬉しく思います。私にとっては法戦式を執り行う貴重な機会であり、とても感謝しています。滞在中は、寺や僧伽の日常活動に参加したいと思っています。また、美しい自然が広がる北海道を少し探検できることも楽しみにしています。

【住職談】 西欧で仏縁を授かり日本で修行してきた慈龍さんですが、法要当日は英語での挑戦となります。特に首座は僧侶としての生き様を言葉の内容ばかりでなく、態度で示される事が求められます。慈龍さんの

話している内容がわからなくても、その言い方やまなざしから、世界に広がる曹洞宗の禅を感じ取っていただければと思います。当日たくさんの方に見ていただきたいので皆さまどうぞお参りくださいね！